



先輩の教え 2 話

昔むかし、先輩に教えて頂いたことを 2 つほど紹介させていただきます。

(第 1 話)30 年ほど前のことです。

大学を卒業し大きな企業に入って生産技術の仕事に就きました。当時は国鉄が民営化されるタイミングだったこともあり、国鉄を早期退職された 50 代の方々が何人が“雇員さん”として、その会社に入って来られました。

社会人になったばかりの 20 代の若造が、父親くらいの年齢の方に仕事の指示を出すわけです。気が引けながらも、仕事ですからこまごまとしたことをお願いし助けて頂きました。

ある日その職場で飲み会がありました。先輩が日頃の感謝の言葉を口にしながら雇員さんにお酌をしていました。

その先輩に教えて頂いた言葉「この人は、“人生の先輩”だ。それを心得て接しなさい。」は、今でも色々な人に対する自分の接し方の基本になっています。

(第 2 話)更にむかし、大学時代のことです。

中学・高校と続けてきたバドミントンを続けようと思い、体育会のバドミントン部に入部しました。

一学年上にとっても強い先輩がいました。脚力はあるのですが腕の力が極端に弱く、“ここぞ！”と言う時にも緩いスマッシュしか打てません。でも、いつも上位ランクまで勝ち上がりました。

ある時練習でその先輩と試合をしたことがありました。ラリーをされていてこちらが返せなかった時に言われた言葉を今でも時折思い出します。

「相手が誠意を持って返してきた玉(シャトルで)を、誠意を持って返し続けなさい！」

この言葉で、その先輩の強さが心の強さであることが分かり“物事への取り組み方”の基本姿勢を教えて頂いた気がします。

以上が先輩から何気なく教えて頂いたことです。日本の文化というのは相手を敬い、誠意を尽くす文化です。日本の製造業はこういった文化の上に築かれてきました。最近、忘れてはいけない大切なことが沢山あるように感じます。

2012 年 5 月 18 日

吉村 守

[著者ホームページ\(吉村守事務所HP\)へ](#)

